



# かわら版

TEL 52-3236  
FAX 52-2230  
shiniti@fuchu.or.jp

本日		中潮	
08:42	03:17		
満	干	21:58	15:25
福山港基準			
尾道港-15分		笠岡港+10分	

## 常・光明寺で大屋根修理

### 一般公開&2日・4日に説明会

新市町常の芦浦地区にある浄土真宗本願寺派・銅栄山 光明寺(千葉善英住職・新市町常208)で現在、本堂の大屋根修理が行われている。

その工事の過程で、新たに見つかったことなどがあり八月一日(月)〜六日(土)、一般公開される(いずれも午前九時〜十一時三十分)。

光明寺の改修工事は、本堂の大屋根、鐘楼門を



大屋根修理の現場です



ご本尊の阿弥陀如来像

中心に、六月から始まり、平成三十年春に完成予定。三次市に本社がある一級建築士事務所・有限会社徳岡工務店(徳岡秋雄代表取締役)が担当。

十七日、同寺で事前説明会があった。光明寺の創建は今から576年前、中世・室町時代の1440年(永享12年)で、開基・祐智法師による。

本堂内部での作業、大屋根の部分解体作業の過程で、広島大学大学院文学研究科文化財学分野の三浦正幸教授や元・福山市しんいち歴史民俗博物館館長の山名洋通さんが調査に入り、いくつかの珍しい点が指摘された。

『本願寺資料集成』木仏之留 御影様之留』によると、江戸時代はじめ、今から408年前の1608年(慶長13年)、第四世・祐善法師が、光明寺に伝わる阿弥陀如来像の登録を本願寺に申請し、承認されたとの記述がある。

それを受け、門信徒や一般向けに公開されることとなり七月二

同年、本堂の前身で、阿弥陀如来像を安置する『梵閣(ほんかく)』と、現在の『鐘楼門』が建立され

た。その後、本堂は今から320年前の江戸時代1696年(元禄9年)、第八世・教峯法師により建立された。

「入口は『唐戸』。柱は全て『角柱(四角い柱)』、古いもので珍しい。角柱の面取りも1cm〜1.2cmと広く、興味深い。ご本尊がおられる『内陣』と左右の『余間』の境に建具が入っていた痕跡。『外陣』に『矢来柱』が四本も立ち、男席(中央)・女席(左右)を分けていたなごり』などと語る。

山名さんは、「この阿弥陀様は、背中に『日輪光背』と『舟形光背』の二つを背負われておられ、数少ない例。のどの部分のしわ・首輪のように見える『三道』があるのも中世仏像の特徴。『蓮(はす)座』に佇まれておられるが、近世の蓮はもう少し開いており、こちらは、つぼみが少し開きかけた状態で、中世・室町末期の特徴」などと説明。

大屋根についても、「かつて茅葺屋根だった頃の、彫りを施した『虹梁(こうりょう)』が見つかりました。現在の『棟木』の下に、ひと回り低い棟木が並んでいるのを確認。威厳を示すため、屋根を高く、大きくした痕跡でしょう」と続けた。

本堂内部について、一級建築士の徳岡さんは、

徳岡さんは、「ごじんまりとしてはいるものの、古式なところが残っており、備後地域の中でも、浄土真宗の本堂としてかなり古い。鐘楼門の彫刻にしても、三浦先生によると、『鶴』『亀』『鯉』の三仙人そろって

いるのは珍しいとのこととです」と話した。

★一般公開期間中の二日(火)・四日(木)午前九時〜十一時、山名さんによる説明会がある。参加無料。

問い合わせは、光明寺(TEL 51-8072)まで。



本堂内部を

山名さん・徳岡さんが説明